

赤れんが北方領土館

樺太関係資料館

若き女性電話交換手の服毒自殺の映像を見た！

戦争ほど、残酷なものはない。
戦争ほど、悲惨なものはない。

二度と戦争を起こしてはならないと決意した。

北海道会派合同行政視察

公明党会派視察

公明党 牧下恭之

2016年(平成28年)11月8日・9日・10日・11日「3泊4日」

【11月8日】

①千歳市防災学習交流センター
「そなえーる」視察
千歳市北信濃631番地11
0123-26-9991

【11月9日】

②上志幌町役場
「ふるさと納税の取り組み」視察
河東郡上志幌町字上志幌東3線238番地
0156-42-4299

③足寄町役場

「足寄高等学校の支援策」視察
足寄郡足寄町北1条4丁目48番地1
0156-25-2141

【11月10日】

④南幌町役場

「稲わらペレット地域循環システム」視察
空知郡南幌町栄町3丁目2番1号
011-378-2121

⑤赤れんが北方領土館

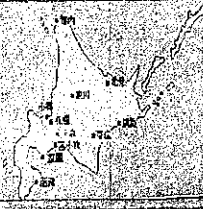
「樺太関係資料館」見学



①千歳市防災学習交流センター



千歳市の位置



千歳市の概要

- ・人口 96,355(北海道内第10位)28.9現在
- ・面積 595km²(東京23区とほぼ同じ)
- ・面積の80% 山林、湖沼、原野、雑木林
- ・産業別人口 約48,000人(公務、卸 小売り、サービス業 83% 製造業は急激な伸びを示している)
- ・工業出荷額 全道5位
苫小牧、室蘭、札幌、釧路
- ・千歳市職員数 約1,000人

災害

体験 学び
そして 伝える



千歳市防災学習交流施設

防災学習交流施設の目的

市民(自主防災組織)、ボランティア、防災関係機関が単独又は相互に連携し、防災学習や防災訓練等を実施することで、市民や防災関係機関の防災力を高めるとともに、防災関係機関に対する理解を深めることを目的とする。

災害時には、災害対策の拠点として使用する。

千歳市防災ハンドブックを全市民に配布し、助けられる人から助ける人を目指している。

防災学習交流施設事業費・工程

- 1 事業期間 平成18年度～22年度
(平成17年度に補助事業として採択)
- 2 整備総面積 約8.4ha
- 3 総事業費 約21億円
(防衛の民生安定事業 補助率7.5/10)
- 4 管理・運営 市直轄運営(勤務員:8～9名)

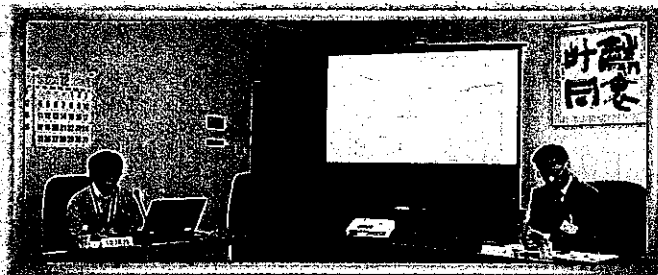
年度	18	19	20	21	22
実施設計	ABCゾーン		Cゾーン管理 機・監視塔		完 成
用地取得		用地買収			
工 事			ABゾーン	Cゾーン用地取得	

煙避難体験コーナー



②上士幌町役場

②ふるさと納税の取り組み



ふるさと納税

ふるさと納税の現状

◎2015年制度改正

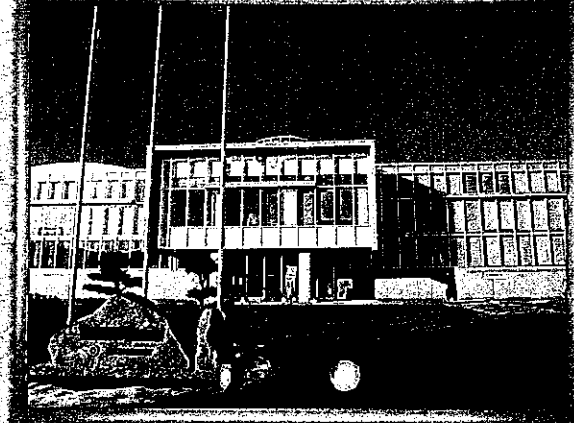
- ①住民税の「特例控除」額が1割から2割に
- ②確定申告が不要になる「ワンストップ特例」スタート

◎ふるさと納税全国状況

平成27年度 寄付額 1,653億円、寄付軒数 726万件

◎2016年地方税収のうち個人住民税は、12兆5千億円

ふるさと納税の市場規模は、2兆5千億円



ふるさと納税はこれからだ！

財政規模

【上士幌町】

一般会計予算 61.3億円
(町民税) 2.5億円
平成26年度寄付額 約9.5億円
平成27年度寄付額 約15.3億円

寄付額は町民税の約7倍

都市と農村の交流
(人の交流・物の交流)

&

情報通信技術の活用

- 平成20年12月 ブログを開設(北海道初)
- 平成21年 7月 農林商工連携促進事業開始(新商品の開発)
- 平成22年 4月 地域おこし協力隊で情報交流推進員を採用
- 平成22年 6月 NPO法人上士幌コンシェルジュ設立
(移住定住・新商品の開発、情報受発信)
- 平成22年 8月 ネットショップ「かみしほろん市場オープン」
- 平成23年 8月 感謝特典の送付を開始
- 平成24年 9月 ふるさとチョイスがオープン
- 平成25年 4月 特典の年度1回の制限をなくす
- 平成25年12月 クレジット決済を導入

ふるさと納税の効果

- ◎町が活性化！
- ◎家計も豊かに！
- ◎雇用の拡大！
- ◎特産品の開発が進む！
- ◎都市から地方へ
(お金・モノ・人)の交流！

ふるさと納税の使い道

子育て・少子化対策夢基金を設立

- ◎幼稚園が10年間無料に
- ◎認定子ども園を設置
- ◎希望の森を設置(子ども達が自然体で楽しめる)
- ◎小学校の少人数学級の実現
- ◎高校生までの医療費無料化

最大のポイント

町長の方針と担当者の取り組みで
破れない壁はない！
やる気で如何様にも展開できる！



①足寄高校存続の取り組み

平成19年、北海道教育委員会が「新たな高校教育に関する指針」を示した（4層級を高校の適正規模とし、定員制で1層級は基本的に3層級を基本とする）。

「地域から高校がなくなる不安感・危機感から足寄高校を存続させる会」を設立。

「地元高校がなくなることによる、中学卒業生の進路範囲の限定化・他市町村への進路による保護者の費用負担増大、人口流出、地域活力や衰退を招く。」

さらに、進路化や少子高齢化は重要な課題であり、自ら進路条件整備や努力のある学校づくりで、多くの進路志望者を確保する必要があることを認識することとした。

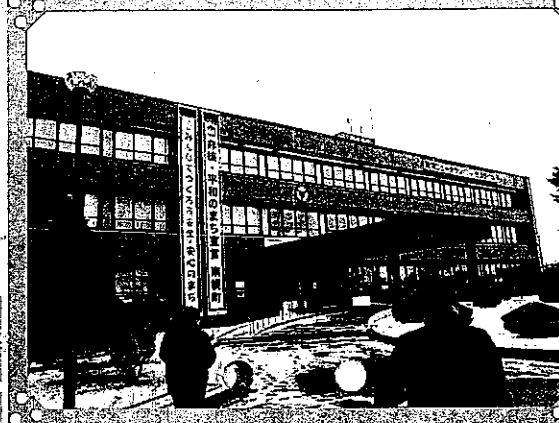
◎教育委員会が行う支援

1. 定期代月額的全額
2. 自家用車利用者 月額2,000円
3. 公共交通機関+自家用車利用者 定期代 月額に2,000円を加算
4. 下宿者 限度40,000円
5. 入学補助金 70,000円
6. 見学旅行補助金 30,000円

27年度支援額 10,382,030円
28年度支援額 14,789,920円

③足寄町役場

③足寄高等学校支援策



◎学校給食費無償化事業

平成27年4月より、小学生・中学生・高校生まで無償
27年度 26,230,009円
28年度 27,890,115円

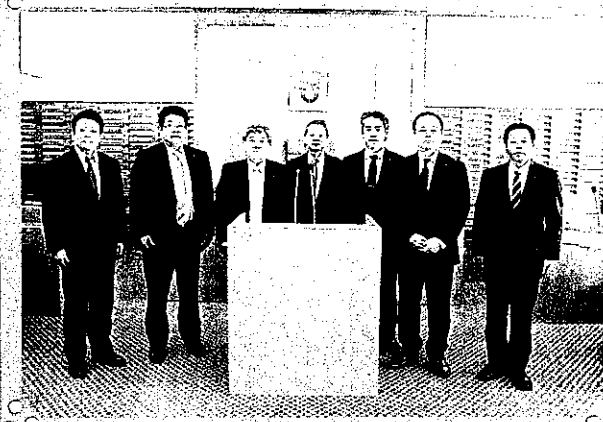
◎足寄高等学校振興会支援

支援事業は、進学学習、夏季・冬季進学講座、進路指導用書籍・資料、模擬試験・検定費用補助、説明会、PR用冊子、九州大学との連携、部活動支援、インターシップ事業

平成27年度 4,148,200円
平成28年度 5,806,720円

◎姉妹都市ウェタスキウイン市海外研修派遣

足寄町全額負担で高1全員
平成27年度 16,930千円 生徒43名
平成28年度 24,011千円 生徒49名



◎足寄高校生のための公設民営塾

足寄高校の特色ある学校づくり支援。
学習意欲の高揚、学習習慣と基礎学力の定着と向上、将来の地域を担う人材育成を目的に学習塾を公設民営で設置。

※高校生の負担はない

【委託料】

平成27年度 34,992千円
平成28年度 29,916千円

【通塾生徒数】

1年生 31名、2年生 25名、3年生 7名

◎足寄高校生向け食事付下宿

町内外から遠距離通学や通学が困難で下宿が必要となる生徒のために、家庭的で静かな学習環境で、調理師による食事提供や、管理人の常駐で安心な下宿整備で、足寄高校生の学習環境を整えた。

家賃、敷金なし、1ヵ月65,000円

④南幌町役場

④稲わらペレット地域循環システム

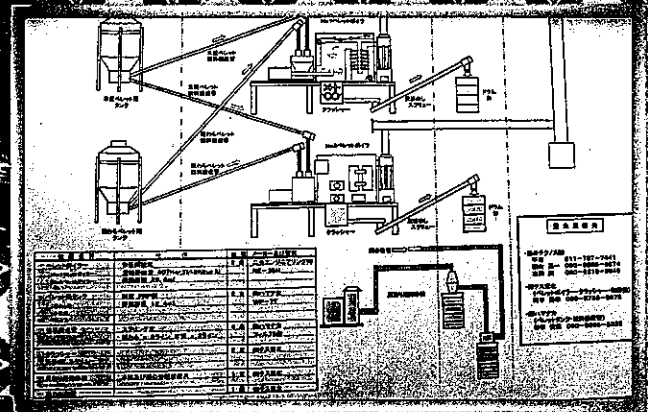
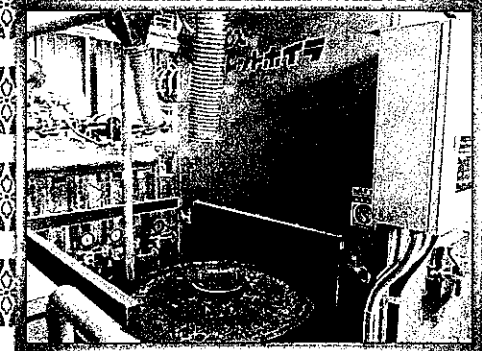


【南幌町の概要】

札幌市から25km圏内で郊外の優良住宅として大規模な住宅団地開発が行われ、平成10年には、人口1万人を突破、経済不況の理庄で平成28年は7,891人と減少傾向にある。
総面積81.36Kmのうち水田が52.38Km、約65%占めている。

【農業系バイオマス燃料化の検討】

- ◎地域新エネルギーの策定(平成19年2月)
- ◎重点テーマに係る詳細ビジョン(平成21年2月)
- ◎新エネルギーの利用可能量 稲わら1位
最大利用可能量 12,927t/年
最小利用可能量 7,368t/年
- ◎稲わら燃料の具体的な需要先の検討
- ◎年間を通じて需要がある、なんほろ温泉へのボイラーの導入が最適
- ◎稲わらペレット実証運用
- ◎ペレットボイラー出力・熱効率試験



【稲わらペレット利用上の課題】

1、技術上の課題

- 1 木質ペレットに比べて灰分が多い
- 2 灰の融点が低く、クリンカ等が生じ、ボイラー・ストーブの燃焼障害
- 3 発熱量・耐久性の観点から良質、均一な製造が求められる

2、社会上の課題

- 1 製造コストの低減化
- 2 稲わらペレット用ストーブ・農業用小型ボイラーの商品開発が必要
- 3 地域振興効果を定量的に示していく必要がある

